



今月の主な目次

- 厳寒期の子牛管理のポイント
- シリーズ草地更新を考える② = 地下茎型イネ科 雑草は更新前に除草剤で退治する =
- 帯広営業所からの紹介 プレミアムアイス
- 平成24年販売デントコーン種子の粒数販売への移行について

時の話題

平成23年を振り返って

平成23年を振り返りますと、3月11日に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所による放射能飛散による汚染があり、未だに復興の途上にあります。収束の道筋が見えて来ない中ではありますが、改めまして震災に遭われた方々には衷心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げます。また、東電の放射能汚染に遭われ未だに避難生活を強いられている方々には一日も早い避難生活の解除を願っております。

北海道においても、放射能汚染により畜産農家へのダメージは大きく、肉牛の枝肉価格、肉牛価格の下落等北海道畜産への影響も大でありましたが、未だに第一原発の放射能漏れに関心が集中しております。

近隣諸国では依然として口蹄疫が収束しておらず、改めて徹底した防疫体制への取り組みの必要性があると考えております。

今年も異常気象の年であり夏の高温、9月の台風直撃により畑作物への被害、とうもろこしの倒伏等大きな爪あとを残しました。改めまして被害に遭われた皆様にはお見舞い申し上げます。

北海道の生乳生産状況を見ましても昨年の猛暑により分娩間隔が伸び9月までの累計では190.4万トンで前年比98.2%と前年を割り込む状況が続いております。また、道内の生乳受託酪農家戸数も前年同月より205戸減少しております。しかし、9月以降に分娩が集

中しており今後の乳量の増大を期待するところです。

乳量増産に向けて乳牛の飼養管理は勿論ではありますが、基本となる土づくりを始めとして老朽化草地の更新等による良質粗飼料生産をお願いいたします。

北海道統括支店と致しましては、従来より良質自給飼料生産に注力しており、全道各地において、植生調査、植生改善が進んでおり、今年度も簡易更新機を利用したの植生改善が進んでおります。今年、天北地区では、弊社所有の簡易更新機を活用頂き植生改善には効果を発揮しております。道東あさひ農協では植生改善プロジェクトを発足させ5ヶ年計画で毎年1,000haの草地更新および簡易更新機を利用したの植生改善プロジェクトがスタートしております。また、積極的にアルファルファ(ケレス)を導入しており今後の良質粗飼料生産に期待するところです。

弊社も良質粗飼料、高栄養価粗飼料生産、増産に向けた基本的な技術、新しい技術に積極的に取り組み酪農発展に微力ではありますが努力して参ります。

今年度は台風により倒伏しましたとうもろこしサイレージの調整を余儀なくされ、収量低下および二次醗酵が予想されます。給与時には採食量の低下等が懸念されますので弊社の最寄営業所へご気軽にご相談頂ければ幸いと存じます。

平成23年も残す所僅かとなりましたが、今年も当社製品・商品のご高配を賜りありがとうございます。家族共々輝かしい新春を迎え24年は最良の年となるようお祈り申し上げます。

(取締役北海道統括支店長 橋場 義孝)